

永明寺古墳の概要

1. 立地

大宮～館林台地上、標高約17メートル

2. 遺跡の概要

古墳の規模

全長一約7.8m 前方部幅一約4.2m 後円部径一約3.6m

高さ一前方部、後円部とも約7m 主軸 N-75°-E

石室の状況

昭和6年に当時の住職が発掘し、翌年に松村勝氏が「村君村永明寺古墳」と題し、“今日その周囲には散乱せる土塊と巨大な玉石が山積されているのみである。内部壁は粘土と小石で固められ、上部も粘土でおおわれ、その上に大きな玉石が整然と並べられ、最上は長さ六尺、幅二三尺の緑泥片岩三枚をもって覆われてあった”『埼玉史談3巻3号 1932年1月号』と報告している。このことから、側壁に河原石を積み上げ、緑泥片岩を棺床と天井部に用いた竪穴式石室と推定されている。

出土遺物—装身具、武具、馬具、工具

耳環、衝角付臂、挂甲糸札（よろい）、大刀・鐔、鉄鏃、轡、鞍金具、盞盤、雲珠、鉄鋸

築造年代

6C初頭（埼玉県『新編 埼玉県史資料編2』1982

6C前葉末から後葉初頭（塩野博「利根川流域右岸の古墳」『埼玉の古墳』2004

6C中葉（栗原文蔵・塩野博「埼玉県羽生市永明寺古墳について」『上代文化38』1969

550年前後（関義則他「県内出土の古墳時代の馬具」『埼玉県立博物館紀要14』1987

TK43形式期（AD550年～600年）もしくはMT85形式期（AD550年）（瀧瀬芳之他「埼玉県内出土象嵌遺物の研究」『研究紀要12』1995 財埼玉県埋蔵文化財調査事業団

現況

村君古墳群の主墳、前方部の上に文殊堂、後円部の上に薬師堂が建つ。墓地造成により後円部が一部削られているが、ほぼ原状をとどめている。

